

くまもとオレンジ大使について



熊本県認知症対策・地域ケア推進課

内部検討

- ◆ 本県は認知症サポーター養成率14年連続日本一を維持するなど、認知症施策において応援者（支援者）を増やす取組を進めてきた。
- ◆ 認知症施策推進大綱にある認知症の本人による普及活動を通じて、認知症の正しい理解促進や本人支援の取組を進めるべく、令和3年度から地域版希望大使の任命に向けて検討を開始。
- ◆ 課内では、「大使に何をしてもらうのか。大使の活動をやりたい方がいるのか。」という意見が。
- ◆ 認知症本人や家族の意見を重視し、まずは、当事者団体との意見交換を行うことに。

当事者団体の意見

- ◆ 認知症のイメージ払しょくのためにも、認知症本人からの発信は良いことだと思う。
- ◆ 家族の側から見ると厚労省で任命された希望大使の活動と現実のギャップが大きいのではないか。希望という言葉に違和感がある。
- ◆ 希望大使のように自ら動いて発信できるような方はなかなかいないのではないか。
- ◆ 症状は進行していくため、長期間の活動は難しいのではないか。

再検討

認知症の本人が大使として活動しやすい内容にしたい。

家族の気持ちも重視したい。



- ◆ 大使一人の活動負担を減らすため、定員は定めない。
- ◆ 任命期間は定めるが、途中退任も可とした。
- ◆ 活動内容は想定するが、基本は認知症本人がやりたい活動を行ってもらったこととした。
- ◆ 匿名での活動も可能とした。
- ◆ 希望というフレーズは使わない。ありのままの姿を発信する。

要項制定・募集

- ◆当事者団体へは再度方針を説明し、理解を得ることができた。
- ◆会員への周知や、活動の説明をしていただけることになった。
- ◆設置要項、募集要領は本県が目指す取組に近い神奈川県を参考に策定
- ◆市町村、関係機関、県ホームページを通じて募集を開始し、報道機関への情報提供も行った。

大使の任命決定まで

- ◆ 認知症の人と家族の会を含む関係機関から3名の応募があった。
- ◆ 3名のうち、2名は本人と家族としてシンポジウム等での登壇経験あり。
- ◆ 活動意欲のある方がおられたが、家族の理解が得られず、推薦まで至らなかった方もいた。
- ◆ 担当で、推薦者や本人・家族に推薦内容の確認を行った。

任命式の開催

- ◆任命式では、知事から任命書を手渡し、意見交換の場を設けた。
- ◆大使3名のうち1名は体調不良により欠席となった。
- ◆今後大使の活動を、大使自ら周知いただくため、名刺を作成した。



大使の活動

- ◆ 県直営のイベントへの参加を中心に依頼。
- ◆ 他の関係機関が実施する取組も活動に加えていたことから、県内市町村や関係機関からの活動の依頼も寄せられている。（調整は県担当者が開催場所や日時、活動内容に応じて大使と支援者に直接行っている）
- ◆ 依頼者からは、認知症の方のイメージが変わった、直接お話が聞けて良かった。などの感想をいただいている。



大使の活動を通じて

- ◆任命までは、どこまでお願いしたらよいか、受けてもらえるのか不安があった。
- ◆いざ、大使ご本人に聞いてみると、「役に立つなら・・・」「なんでもできることはやります！」と言っていただけ。
- ◆認知症になっても誰かの役に立ちたいという気持ちは変わらない。
- ◆明るくアクティブな大使の皆さんに自身も元気をもらえた。

まだまだ課題も・・・

- ◆次回の募集方法（随時か定例か）
- ◆くまもとオレンジ大使の周知
- ◆家族の活動への理解
- ◆若年性認知症の方の参加
- ◆市町村における活動の展開（チームオレンジなど）

ご清聴ありがとうございました



©2010熊本県くまモン